

いきもの広場

① イラガのまゆ



幼虫は毒のトゲをもちますが、まゆや成虫に毒はありません。まゆは幼虫が粘液を出して固め、自分で作ったものです。

② ハラビロカマキリの卵のう



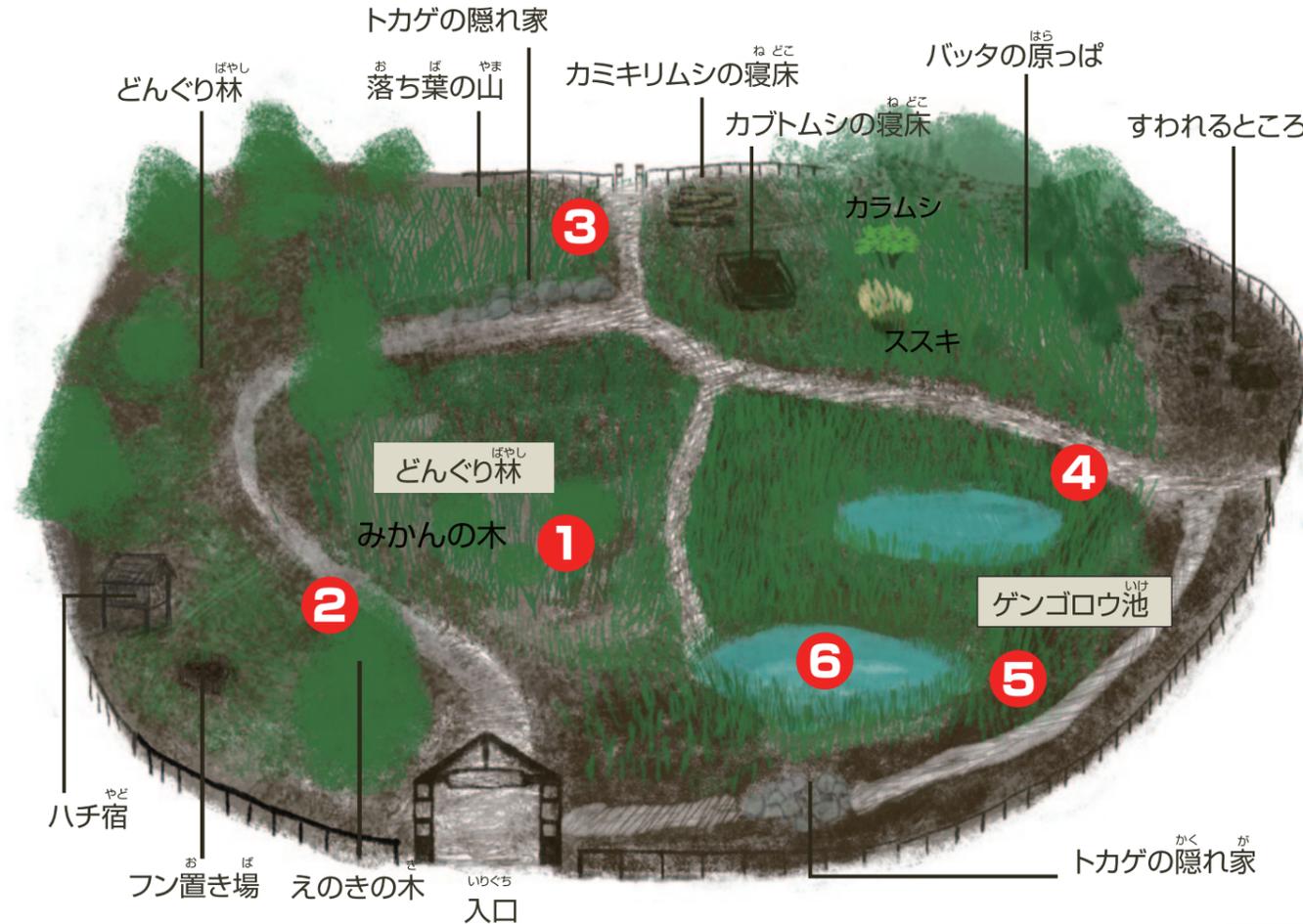
ツノのような突起があるのが特徴です。卵のうの形はカマキリの種類により違います。

③ カブトムシの幼虫



幼虫は夏の終わり～秋にかけて腐葉土を食べ、子供の手のひらほどの大きさの「3齢幼虫」に成長し、冬を越します。

いきもの広場は、動物園の中に作った「近所の自然」です。広場のなかには様々な環境や生き物と出会うための小さな仕掛けがたくさんあります。一段と寒さ厳しくなる2月、いきものたちは色々な姿で冬を過ごしています。その様々な工夫を紹介します。



⑥ ギンヤンマの仲間のヤゴ



池の中で大きさ5cm前後のヤゴが越冬中。大きな目が特徴です。

⑤ クヌギカメムシの卵



コナラの看板の裏で見つけました。冬を卵の姿で越します。ふ化した幼虫は、卵をおおっていたゼリー状の物質を食べて育ちます。

④ ジャノメチョウの幼虫



幼虫の姿で冬を過ごします。食草であるススキの根もとに隠れていました。

足元を見てもよう

越冬中のいきものは簡単には見つかりません。寒さをしのげる場所に隠れているからです。特に、落ち葉の下は色々ないきものに大人気。落ち葉をめくって観察した後は、元いた場所に戻すようにしましょう。

